

令和元年度 学校教育自己診断分析

校長 田 尻 肇

対象

生徒 764 名（回収率 96.1%） 保護者 390 名（回収率 49.1%）

対象別考察

<生徒>

- ・ほぼ全ての項目において肯定率が増加した。教職員集団による日頃の教育活動の成果であり、学校として嬉しい結果である。特に、授業における満足度が大きく増加したことについては、授業改革に向けた教員個人はもとより、組織の取組みが生徒の満足度に繋がっていると思われる。学習指導要領改訂のなか、引き続き、生徒にとって「必要な力」、そしてその力をつけるための「効果的な教授法」について、組織的な授業改革は課題である。
- ・教員側の生徒に対する人権意識の向上により、「教員からの寄り添い」を感じる生徒が増加したことがうかがえる。生徒の多様化が進むとともに、共生推進教室を設置している本校にとって、教員集団のカウンセリングマインドの向上はとても大切な視点である。
- ・今後の課題としては、家庭学習時間の増加、行事の満足度の向上、生徒の（背景を考慮したり内面に踏み込むなど）説得、納得に基づいた生徒指導の確立などがある。

<保護者>

- ・大きな変化はないが多くの項目において肯定率が減少（微減）した。昨年度多くの項目で増加したことが影響していることと回収率が半数弱であることを考えると、有意差が何ポイントであるのか判断が難しいところであるが、2年間連続で増減した項目、2年間で5ポイント以上の増減が生じた項目に着目する。

<2年連続で肯定率が減少した項目は3項目>

- ・「5. 学校は保護者の期待に答えている」が5ポイント減少し 73%となった。抽象的な質問であるため分析は難しいが、ベーシックな部分であるため真摯に受けとめ、家庭との連携や保護者ニーズの把握に力を入れていく必要がある。
- ・「8. 学校は将来の進路や職業理解について適切な指導を行なっている」が2年連続で減少し 81%となった。大きな下げ幅ではないがキャリア教育の充実が課題と言える。
- ・「9. 子どもは授業がわかり易く楽しいと言っている。」が2年連続、計8ポイント減少した。生徒による授業評価は2年連続で良くなっているが、保護者による授業改善への強いニーズが伝わってくる結果である。

<2年連続で肯定率が増加した項目は2項目>

- ・「26 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」が微増ながら2年連続で増加した。学校教育に関心を持っていただいている結果であると言える。
- ・「27. 学校のホームページを見る。」は昨年14ポイントの大幅な増加を示したが今年度も増加し、8割に達した。日頃の学校の様子はもとより、修学旅行をはじめとする様々な行事や部活動の活躍、緊急連絡など多岐にわたる発信を行なった成果であり、嬉しい結果である。

※ 上記以外で、2年間で5ポイント以上増減した項目はなかった。

各カテゴリー別

<学校生活>

「1. 学校へ行くのが楽しい」生徒 77%・保護者 81%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」生徒 93%・保護者 91%、「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」生徒 84%、「保 13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」保護者 79%の肯定であった。多くの生徒が、安心した高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」生徒 70%、「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」74%、両質問についての肯定率は増加傾向である。多様な生徒が入学してくる状況のなか、大切な視点であると言える。

<学習活動>

「11. 興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」生徒 91%、「3. 自分の学力にあった授業が多い」生徒 83%、「5. 実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒 71%、「4. 興味・関心を持って取り組むことのできる授業が多い」生徒 72%、「7. 授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」生徒 74%と学習に関する肯定率はほぼ全ての項目で増加した。教員側の授業の工夫や努力が結果として表れている嬉しい結果である。「14. 学校の授業以外に、平均すると1日1時間以上学習している」45%は昨年と同じであった。理想は生徒自身の内的動機に基づいた学習習慣であるが、まずは、家庭における学習習慣を確立するための取組み（宿題など）をもう少し強化していく必要がある。「13. 学校の自習室やHR教室で自習することがある。」57%は、昨年から6ポイント増加した。

<キャリア教育>

・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」生徒 84%、「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」生徒 83%と増加した。進路指導部、担任を中心とした「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

・「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる」生徒 45%の肯定であった。2年連続増加したものの未だ低く、引き続き「説得」「納得」に基づく指導を心がけていく必要がある。保護者においては「12 学校の生徒指導の方針に共感できる」71%、と一定の理解を示していることがうかがえる。

<人権意識・人権教育>

・「24 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」生徒 77%、「25 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」生徒 73%、と両項目とも肯定率が大きく増加した。保護者においても「18 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」80%と高い肯定率を示している。

<情報提供>

・「学校のホームページを見ることがある」保護者 80%と高い肯定率を示している。トップページを改善し、検索し易くしたことに加え、動画での学校紹介、学校の様子や部活動の活躍を数多く更新（年450回程度のペース）、さらに緊急ブログを開設し緊急時の対応などをタイムリーに伝えたことなどが結果につながっている。保護者「28 学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」92%、「29. 学校は教育情報について提供の努力をしている」86%、と情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い。引き続き、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者はもとより、地域や中学生にも発信していきたい。